

# Tobu通信

鳥取県教育委員会事務局  
東部教育局  
〒680-0846鳥取市扇町21番地  
東教発 R1.9.2 No.157  
http://www.pref.tottori.lg.jp/t-kyoiku/

## 特別活動で未来を切り拓く

## 八頭町立郡家東小学校



郡家東小学校は、特別活動の研究実践に取り組んで6年目になります。「児童の課題は教師の課題」と捉え、「主体的に活動する場を保障できているか」「教師主導になりすぎていないか」と自分たちを見つめ直すところから始まり、今では、子どもたちの変容を実感できるまでになっています。

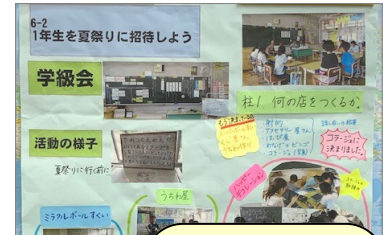
### 子どもが 変わってきている実感！

**日常生活**  
みんなでよりよい学級生活、  
学校生活をつくらうとする。

**学級会**  
考えを出し合い、折  
り合いをつける。

### 好循環

**日常生活**  
学校生活の中にある問題  
を発見し、改善策を提案し、  
解決に向けて考えられる。



### <主な取組>

- ・学級会、代表委員会の活性化
- ・委員会活動の組織改革
- ・異学年交流の充実
- ・高校生、園児との交流

### 代表委員会

4年生以上が出席する。4年生も積極的に話し合いに参加し、つくり出す喜びを感じている。最後に担当教員から話し合いの講評があり、次回以降の話し合いに生かされる。

### 活動の見える化

級外の職員が、各学年の学級会、集会活動等の様子を伝える廊下掲示物を作成する。また、保護者を巻き込むことを意識してホームページの更新を毎日行う。

**集会活動等**  
人のために進んで行動する。感謝の言葉を受け、人の役に立つ喜びを感じられる。

### <子どもの姿に見る成果>

- ・自己肯定感、挑戦意欲、協働性の向上
- ・温かい人間関係の構築
- ・落ち着いた学習環境で、学力が向上
- ・新たな課題の発見と提案する力の向上

「大人の学級会」とは、研究主任を担任役とした模擬授業です。折り合いのつけ方や話し合いの進め方などを実感を伴って理解する機会になります。

### <教職員の变容> 職員の結束力UP

- ・「特別活動」そのものに対する理解が深まった。
- ・全職員で特別活動に取り組むようになった。
- ・これまで以上に、他教科の教育課程と特別活動の内容を関連付けて日々の指導を行うようになった。
- ・「大人の学級会」を実施したことで、学級会の進め方の理解、同僚性、参画意識も高まっている。

郡家東小学校は、特別活動の「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」の3つの視点を、めざす児童の姿にあてはめて設定しています。今後も、キャリア教育や各教科との往還を意識した実践を進めていきます。特別活動を充実させることは、考えを出し合い共に学び合う学習集団を構築します。そして、よりよい生活をつくらうとする力を養うことにもつながっていきます。

## 変化の激しい時代の中で

## 局長 吉川 誠司

今年の夏も異常に気温が高い日が続いたり、台風が次々と接近・上陸したりと気候に大きな変化を感じ、これまでとは違った対応が迫られる時代となったことを実感しました。

さて、新しい学習指導要領への先行実施や移行に向けた取組が各校で進められているところですが、この学習指導要領等に「生きる力」という表現がでたのが、23年前(1996年の中央教育審議会第一次諮問)でした。その中で「いかに社会が変化しようと、自分で課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力であり・・・」と表現され、「生きる力」を育てることの重要性は、その後も繰り返し示されてきています。今回の改訂においても、その「生きる力」の育成の考え方を引き継ぎながら、これからやってくる時代に対応できる力を盛り込むものとなっています。学校がこれまで大切にしてきたことを踏まえつつ、時代の変化に対応する教育こそが、今、求められています。何をどう変えるのか、変えないのか。やり方、内容・・・。いずれにしても、その本質を見失わないで、時代の流れに対応した教育を進展させることが重要です。

今一度、学習指導要領(解説)をしっかりと読み込み、確認しながら進めたいものです。

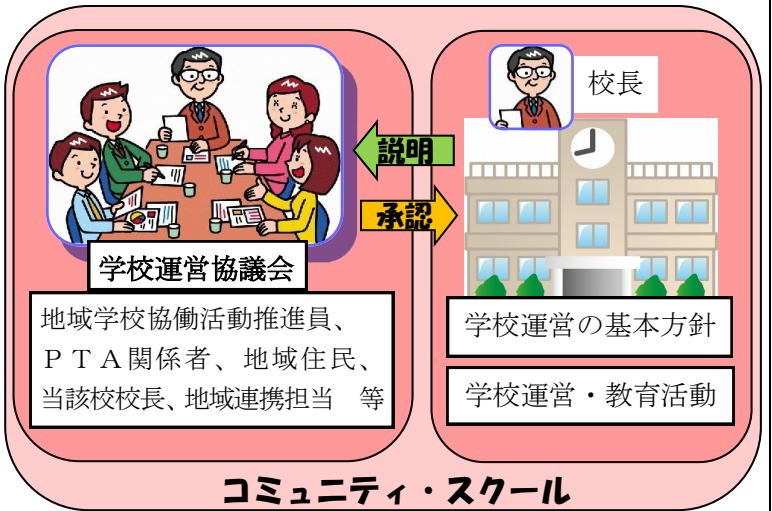
社会教育  
コーナー



# 地域とよりよくつながるために

湖南学園は、昨年9月よりCS（コミュニティ・スクール）となりました。基本方針は「地域に根ざした学園づくり～学園は地域を元気に、地域は子どもを豊かに～」とし、重点目標を①地域教育力の向上②つながりのある地域づくりと設定しています。地域の方や保護者の意見を反映することのできる学校運営協議会を設置し、目標達成に向け取り組んでいます。今回は、地域とつながる様々な工夫を紹介します。

保護者・地域住民等が学校運営協議会を通じて「地域でどんな子どもを育てるのか」というビジョンを共有し、当事者として学校運営に参画します。



## コミュニティ・スクール

### 湖南の未来を語り合う会

地域の方々を招いて教職員と一緒に協議しています。みんなで「どんな子に育てたいか」「こんな地域にしたい」という想いを語り合い学校運営協議会に反映させます。また、学校を支援するボランティア同士の繋がりもでき、お互いの想いも交流できます。



### 学校と地域とのつなぎ役

学校の窓口として**地域連携担当教職員**を分掌に位置づけ、地域の窓口となる**地域学校協働活動推進員**と円滑な連携が取れています。教員は、窓口となる担当がいるため相談しやすく、打ち合わせの日程などをスムーズに調整できます。また、推進員は子ども達につけたい力を把握した上で、地域へ協力を依頼しています。



地域連携担当教職員

地域学校協働活動推進員

### ありがとうキャンペーン

〈前期の活動〉

1～4年	下校ボランティアさんへの手紙
5年	米作りボランティアさんへの手紙
6年	ホテル祭りへのお役立隊
7年	吉岡温泉町の足湯清掃、ゴミ拾い
8～9年	旧中学校体育館、周辺の清掃・整備

普段お世話になっている方々へ感謝の気持ちを表す活動です。手紙や地域行事への参画、温泉街の清掃など、自分たちで考えて行動する取組でWin-Winの関係を構築しています。学校にとっては、地域貢献をすることで子ども達の自尊心が高まることをねらい、また、そこで生まれる地域の方々との交流も大切にしています。



### 湖南学園運営協議会会報「絆」



— 湖南学園 学校運営協議会 研修会 報告 —  
主題 「子どもの安心安全、地域の安心安全」

5月31日に湖南学園の湖南ホールで地域の学校関係者参加のもと研修会を開催した。初めに 会長が基本方針と重点目標を説明し、関係者に理解と協力を求めた。次に、校長先生より本年度の学校運営・学園の概要について説明があり、その後「安心安全」「つながり」「ボランティア」「地域づくり」の4グループに分かれ、主題に沿って意見交換が行われた。主な意見は下記の通り。

- 〈早急な取り組みが必要なもの〉
  - ・ 学校、地域、家庭が連携し組織的に情報共有できる体制づくり。(特に災害時)
  - ・ 西道路開通に伴い、特に10付近での通学路が危険。
- 〈今後取り組み予定があるもの〉
  - ・ 子どもと一緒に危険箇所などを一緒に見回り「支えマップ」を作成。
  - ・ 地域と学校で危険箇所、問題箇所を共有する。
- 〈子どもとの関わり〉
  - ・ 子ども名前を覚える。大人名前を覚えて貰う。
  - ・ 子どもがいない家庭は学校の様子分からないので知っておく必要がある。

会報「絆」は、地域委員が作成し、全戸配布しています。学校運営協議会で決まったことについて、地域住民へ理解を促し、協働・参画していただくことをめざしています。

CSについての家庭や地域の理解を得ること、地域の想いを取り入れることなどを根底におき、学校運営協議会が学校と地域とを結ぶ懸け橋になっています。また、地域連携担当教職員と地域学校協働活動推進員の設置により、連携が取りやすくなっています。学校と地域の活動がよりよくつながるようCSの仕組みを活用し、地域とともにある学校づくりを進めていきたいものです。



## 学事コーナー

## 学校における働き方改革への挑戦

前期学校訪問において、校長先生方から働き方改革の取組について伺いました。中央教育審議会答申を受けて、業務改善を進めている学校が多く、時間外勤務削減を図る様々な工夫・努力をお聞きすることができました。今回はその一部をご紹介します。

## 削減・削減予定

## 【日々の活動】

- ・朝マラソン ・業間体育 ・帯時間のスキルタイム
- ➔宿題やノートを点検する時間を確保できる  
時間のゆとりを生み出すことができる

## 【職員の業務等】

- ・一部の学校行事 ・資源回収への職員の参加
- ・朝の日直業務 ・朝の交通立番
- ・研究収録（冊子） ・学校文集
- ➔勤務時間外の負担をなくすことができる  
より必要で効果のある業務に注力できる

## 【夏休み中の行事等】

- ・夏休み前の地区別懇談会 ・サマースクール
- ・出校日 ・家庭訪問 ・プール開放
- ➔夏休みにしっかりと休みをとることができる

これまで学校がしなければならなかったと思って続けてきた業務の中には、保護者や地域の方は、それほど求めているいなかったものもありました。（校長先生より）



削減、見直しできる内容は、学校によって異なります。各学校の実態に応じて、これまで「するのがあたりまえ」と行ってきた業務も含めて、「本当に効果があるのか」「効果はあるが丁寧すぎはしないか」などの視点で、他校の取組も参考にしながら、今一度見直してみてください。

## その他の取組例

## 【放課後等に時間のゆとりを生み出したい！】

- ・生活時程を見直す
- ➔トータル40分繰り上げた学校もありました
- ・各種会議の時間を短縮
- ・電話対応の時間制限の設定・留守番電話の導入
- ・水泳大会に向けた練習のスリム化

## 【時代に合わせた意識改革も必要！】

- ・学校としての退勤時刻の上限を示す
- ・職員室へ「早帰り予告掲示板」を置き、各自が名前を記入することで見える化する
- ・時間外勤務の個人カルテを作成し、目標と実績を記録することで時間に対する意識を高める
- ・教務主任が週案を2～3週先まで示し、先を見通して業務を進める習慣を身につける

## 【見直してみよう！】

- ・学校が行ってきた業務を公民館事業へ移行
- ・夏休みの自由研究を選択制に

## 学力向上コーナー

## これからの授業改善に向けて

前期学校訪問では、各学校の「とっとりの授業改革【10の視点】」を意識した取組や自校の教育課題を踏まえた共通実践が数多く見られました。2学期・前期後半の始まりにあたり、今後の授業改善を進めていく上での視点を紹介します。

## ① 一単位時間のゴールイメージの明確化

## 【ポイント】

- ◇ 明確な評価規準を設定すること
- ◇ 「本時のねらい」「児童生徒に示すめあて」「児童生徒による振り返り」が1本の線としてつながっていること
- ◇ 45（50）分の中に、必要な学習活動をおさめること

## ② 主体的・対話的な学びの推進

## 【ポイント】

- ◇ 教師の発する言葉を精選すること
- ◇ 児童生徒の対話場面がねらいに迫るものとなっていること



授業改善の推進にあたっては、県教委発行「学力向上を支える基盤づくりに向けて（H30.3月）」や東部教育局発行「元氣いっぱい 園・学校づくりのポイント集Ⅱ（H31.3月）」等をご活用ください。



今回の学校訪問においては、授業のねらいや児童生徒の実態に合わせたTTや少人数指導の工夫、児童生徒の理解や思考を促すためのICTの活用や資料等の提示の工夫、学びの足跡がよく分かる板書の工夫などが、多く見られました。先生方の更なる工夫により、子どもたちが力をつける実りの秋にしていきましょう。